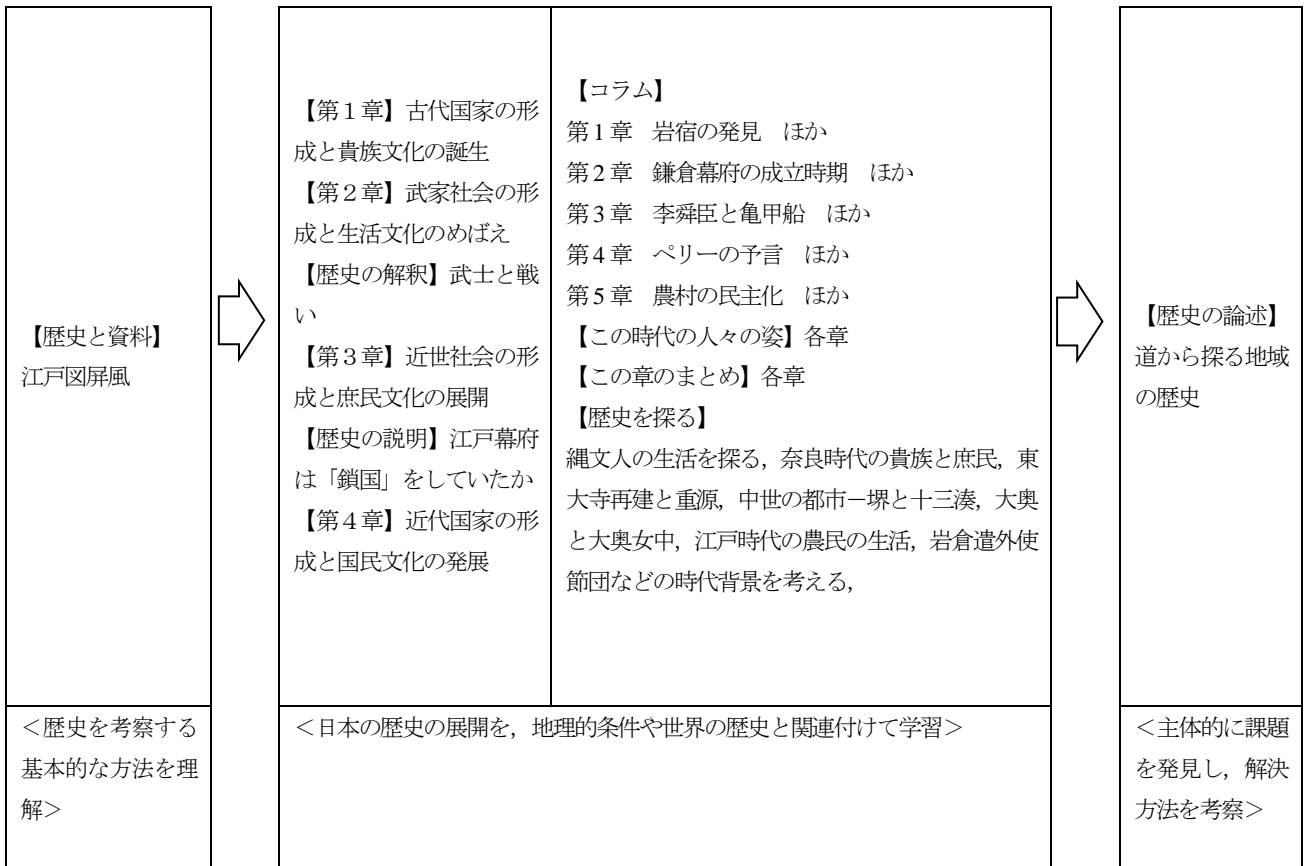


日本史B	単位数	3単位
	学科・学年・学級	地歴科 第2学年
使用教科書，副教材等	・東京書籍「新選日本史B」(日B303)・帝国書院「図説日本史通覧」(1組のみ)	

### 1 学習の到達目標

- ①我が国の歴史の展開を，諸資料にもとづき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察する。
- ②各時代の特色とその変遷の総合的考察を通じて，我が国の文化と伝統の特色についての認識を深める。
- ③歴史的思考力をつちかい，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
- ④3年次での継続履修にむけて，原始より近代までの基礎知識を定着する。

### 2 科目の特色



<p>歴史探求の方法</p> <p>【歴史の解釈】諸資料を活用して，歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈する。</p> <p>【歴史の説明】複数の歴史的解釈について，それぞれの根拠や論理をふまえて説明させる。</p>
---

現代の日本社会が抱える課題の多くは、歴史的に形成されてきたものです。私たちは、日本の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付けて学ぶことによって、それらの課題についてより深く理解することが可能です。そして、それらの課題を解決していくためには、歴史的な思考力、公正な判断力、豊かな表現力を身に付けることが必要です。このねらいを達成できるよう、新選日本史Bは以下のように構成されています。

本編にあたる第1章から第4章では、原始・古代から近代にいたる日本の歴史の展開を学習します。第1章では古代国家の形成について、第2章では武家社会の形成について、第3章では近世社会の形成について、第4章では近代国家の形成について、第5章では現代の日本と世界について学びます。各章末にはまとめのページが設けられているので、その時代がどのような時代であったのか、課題に沿って自らの言葉でまとめてみましょう。さらに、本編に入る前に「歴史と資料」、第2章の冒頭に「歴史の解釈」、第3章のなかに「歴史の説明」が設けられています。一連の学習を計画的に行うことで、歴史学習にかかわる基本的な技能を段階的に高めていけるように配置されています。

また、各章には、「この時代の人々のすがた」「コラム」「歴史を探る」が設けられています。これらの資料を通して、それぞれの時代の歴史を体験的に学習し、私たちひとりひとりが歴史の当事者であるという自覚をもち、課題を発見することをめざします。巻末に位置する「歴史に学ぶ」は、現代の私たちが生きていくうえで指針となりうるテーマを含む歴史的事象を取り上げます。

これらの学習を通じて、歴史的な思考力、公正な判断力、豊かな表現力を身に付けていきましょう。

### 3 学習の計画

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
4 月	歴史と資料	江戸図屏風	○さまざまな資料の特性に着目し、資料にもとづいて歴史が叙述されていることを学びます。	○『江戸図屏風』の読み取り作業を行い、発見した課題を多面的・多角的に考察します。
	第1章 古代国家の形成と貴族文化の誕生	この時代の人々の姿 古代	○絵画資料をもとに、古代の人々の暮らしについて考察します。	○12世紀に描かれた『年中行事絵巻』の読み取りにもとづいて考察します。
	1. 原始社会の生活と文化	1. 更新世の日本 2. 縄文文化	○気候や地形、動植物相・植生の変化などの自然環境に着目し、人々の食料獲得方法や道具の変遷、呪術的風習、地域的な差異等を学びます。	○旧石器時代と縄文時代の遺物などの資料にもとづいて考察します。
	2. 農耕社会の形成と大陸文化の摂取	1. 弥生文化と小国家の形成	○集落立地、食料獲得方法と食生活の変化、富の蓄積、習俗や墓制の推移等の社会の変化を学びます。	○道具や稲作などの大陸文化の影響を考察します。
		2. 大和王権と古墳文化	○小国の形成から大和王権にいたる過程と古墳文化の特色について学びます。	○東アジア世界との関係に着目して考察します。

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
5月	3. 律令国家の形成と古代文化の展開	1. 飛鳥の朝廷と文化  2. 律令国家の成立と白鳳文化  3. 平城京と天平文化  歴史を探る 奈良時代の貴族と庶民	○東アジア世界が大きく変動するなか、推古朝の国政改革が進んだことを学びます。 ○仏教を基調とする文化が開花したことを学びます。 ○大化改新を経て、律令国家が形成される過程を学びます。 ○律令制のしくみについて学びます。 ○中央集権体制のしくみと奈良時代の政治の動向について学びます。 ○国際色豊かな貴族文化が栄えたことを学びます。 ○奈良時代の貴族と庶民の日常生活について理解します。	○遣隋使の派遣や冠位十二階・憲法十七条制定のねらいを考察します。 ○飛鳥文化の世界性について考えます。 ○壬申の乱に勝利して生まれた天武朝がもつ歴史的意義について考察します。 ○図版・資料を活用して、平城京の特色について考察します。 ○遣唐使の果たした役割について考察します。 ○コラムを活用し、史料としての木簡の有用性について考えます。
6月	4. 摂関政治と文化の和様化	1. 平安遷都と唐風文化  2. 貴族社会と摂関政治  3. 国風文化	○平安時代初期に、律令体制の再建が進んだことを学びます。 ○唐文化を消化した新たな文化が発達したことを学びます。 ○藤原氏による摂関政治が始まったことを学びます。 ○地方政治が転換するなか、武士団の形成が始まったことを学びます。 ○大陸文化を消化し、日本の風土や生活に適応した新しい貴族文化が進展していったことを学びます。	○桓武朝・嵯峨朝の改革がもつ意味について考察します。 ○最澄と空海のもたらした仏教の新しさについて考察します。 ○系図を活用して、摂関政治がどのように展開したのかを考察します。 ○地方政治がどのように転換したのかを考察します。 ○絵画資料などを活用し、平安時代の貴族の生活について具体的に考察します。
		4. 院政と荘園  5. 平氏政権の登場	○11世紀以降、公領の変質や荘園の拡大が進んだことを学びます。 ○院政のしくみについて学びます。 ○12世紀の保元の乱・平治の乱を経て、武家政権としての平氏政権が成立したことを学びます。	○荘園絵図を活用して、荘園の具体像を考察します。 ○なぜ院政という政治形態が生まれたのかを考察します。 ○平氏政権の成立にいたるまでの武士の動向について考察します。
	この章のまとめ		○古代国家がどのように形成されてきたのかを、自分の言葉で表現します。	○写真や地図などを参考にして、課題に取り組みます。

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
7月	第2章 武家社会の形成と生活文化のめばえ	この時代の人々の姿 中世	○絵画資料をもとに、中世の人々の暮らしについて考察します。	○16世紀に描かれた『祇園祭礼図屏風』の読み取りにもとづいて考察します。
		歴史の解釈	武士と戦い ○諸資料を活用して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈します。	○「武士」が歴史のなかでどのように位置づけられているのかを考察します。
9月	1. 中世社会の成立	1. 鎌倉幕府の誕生	○鎌倉幕府の成立過程とこの時代の武士の生活について学びます。	○なぜ源頼朝のもとに武士が集まったのかを考察します。
		2. 執権による政治	○鎌倉幕府が、二元的支配からしだいに公家政権より優位に立つようになっていったことを学びます。	○承久の乱の歴史的意義について考察します。 ○実質的な土地支配権が地頭ににぎられることになった理由を考察します。
9月	2. 武家社会の形成と東アジア	3. 元寇と社会の変貌	○元寇の前後、宋銭の流入によって貨幣経済が進展したことや鎌倉幕府内で得宗の力が強まったことを学びます。	○世界史で学ぶ宋・元の歴史をふまえて、元寇の背景や影響について考察します。
		4. 鎌倉の仏教と文化	○武家社会の成立や庶民の経済活動の活発化を背景に、新しい文化が広がったことを学びます。	○武士や庶民を題材にした文学、絵巻物や力強く写実的な彫刻の写真などを利用して、文化の新気運を考察します。
9月	2. 武家社会の形成と東アジア	歴史を探る 東大寺再建と重源	○東大寺再建事業に活躍した重源の事績について学びます。	○どのような立場の人々の協力があつたのかを考察します
		1. 室町幕府の創設	○鎌倉幕府の滅亡後、南北朝の動乱のなかで室町幕府が成立した過程について学びます。	○南北朝の動乱が長期化・全国化した理由を考察します。
9月	2. 武家社会の形成と東アジア	2. 倭寇と東アジアの交易	○倭寇の活動を背景にして、日明貿易・日朝貿易が展開したことを学びます。	○琉球・蝦夷地との関係を含めて、世界史的視野から中世の東アジア世界をとらえます。
		3. 下剋上の社会と戦国大名	○産業経済の発達や庶民の台頭を経て、庶民の活動が従来の社会秩序を変える原動力になったことを学びます。	○史料を活用して、一揆をはじめとする具体的な庶民の活動について考察します。
9月	2. 武家社会の形成と東アジア	歴史を探る 中世の都市—堺と十三湊	○中世には、堺や十三湊をはじめとする自治都市・港町が発達したことを学びます。	○地理的条件に留意して、それぞれの都市の特色について考察します。
		4. 室町文化	○東アジア世界との交流のなかで、武家文化と公家文化の融合や庶民文化の発達がみられたことを学びます。	○室町文化を象徴する金閣・銀閣の構造に、どのような特色がみられるのかを考察します。

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
	この章のまとめ		○中世社会がどのように形成されてきたのかを、自分の言葉で表現します。	○写真や地図などを参考にして、課題に取り組みます。
10月	第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開	この時代の人々の姿 近世	○絵画資料をもとに、近世の人々の暮らしについて考察します。	○19世紀初頭に描かれた『熙代勝覧』の読み取りにもとづいて考察します。
	1. ヨーロッパ文化との接触と国内統一	1. ヨーロッパ文化との接触 2. 織豊政権による全国統一 3. 桃山文化	○大航海時代という世界的背景のもと、日本に鉄砲やキリスト教が伝来したことを学びます。 ○織田信長・豊臣秀吉による天下統一の過程と、秀吉が実施した検地・刀狩・朝鮮出兵について学びます。 ○新興の大名や都市の豪商の精神を反映した豪壮華麗な文化が栄えたことを学びます。	○スペイン・ポルトガルの勢力が東アジアに現れた理由について、地図を活用して考察します。 ○太閤検地と刀狩が、従来の社会の何をどのように変えたのかを考察します。 ○桃山文化を象徴する城郭建築の特色について、写真や図版を活用して考察します。
	2. 幕藩体制の成立	1. 江戸幕府と大名・朝廷 歴史を探る 大奥と大奥女中 2. 身分制度の確立	○江戸幕府の組織と大名統制、朝廷・寺社統制など、幕藩体制の特色について学びます。 ○江戸城の大奥のしくみと、大奥の女性たちのありようについて学びます。 ○近世社会の身分制度を学び、幕府による農民統制と農村における自治について理解します。	○参勤交代のコラムを活用し、武家諸法度による大名統制について考察します。 ○大奥の女性のありようを参考に、江戸時代の女性の社会的地位について考察します。 ○絵画資料をもとに、それぞれの身分の暮らしについて考察します。
11月		歴史を探る 江戸時代の農民の生活 3. キリスト教禁止と鎖国	○絵画資料をふまえて、四季に応じた江戸時代の農民の生活について理解します。 ○鎖国政策による貿易統制と禁教という側面とともに、オランダ・中国・朝鮮・アイヌとの交易が行われたことを学びます。	○現代生活のなかに、江戸時代の農村の年中行事と共通するものがないか考察します。 ○江戸時代の日本が鎖国政策をとっていたころの国際環境について考察します。
	3. 近世社会の発達と町人文化	1. 幕府政治の進展 2. 経済と産業の発達 3. 学問の新傾向と元禄文化	○17世紀中ごろ、強圧的な武断政治から学問などを尊重する文治政治に転換したことを学びます。 ○農業・商工業などの産業が、交通の発達や貨幣・金融制度の確立などと相互に関連して発達したことを学びます。 ○元禄文化は、商業活動の展開による都市発展と、町人の経済的繁栄を背景にした文化であったことを学びます。	○徳川綱吉が出した生類憐みの令がもたらした影響について考察します。 ○地図を用いた作業学習を通じて、全国規模での陸上・水上交通の発達や商品流通の活発化を考察します。 ○自然科学の発達や農書の広がりについて考察します。

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
12月	4. 幕藩体制の動揺と庶民文化の発達	1. 幕藩体制の動揺と政治改革	○財政難に直面した幕府では、享保の改革を経て田沼意次による改革が行われたことを学びます。 ○社会構造の変化による幕藩体制の動揺に対応するため、寛政の改革が進められたことを学びます。	○財政再建を進めるために、徳川吉宗と田沼意次が行った政策を比較して考察します。 ○商品経済の発展が農民層の分解をもたらした理由について考察します。
		2. 幕藩体制の危機	○内外の危機が深まるなかで実施された天保の改革が失敗する一方、雄藩が誕生してきたことを学びます。	○19世紀前半に外国船が接近した理由を、世界的視野から考察します。
		3. 新しい学問の形成と化政文化	○洋学・国学などの新たな学問と思想が発展し、江戸を中心とする町人文化が形成されたことを学びます。	○『解体新書』の訳出事業を参考に、蘭学が発達した過程について考察します。
	歴史の説明	江戸幕府は「鎖国」をしていたか	○複数の歴史的解釈について、それぞれの根拠や論理をふまえて説明することを学びます。	○江戸時代の対外関係を「鎖国」ではないとする見方と、「鎖国」であるとする見方とに分けて考察します。
	この章のまとめ		○近世社会がどのように形成されてきたのかを、自分の言葉で表現します。	○写真や地図などを参考にして、課題に取り組みます。
1月	第4章 近代国家の形成と国民文化の発展	この時代の人々の姿 近代	○絵画資料をもとに、近代の人々の暮らしについて考察します。	○銀座煉瓦街の様子を描いた錦絵の読み取りにもとづいて考察します。
	1. 開国から明治維新へ	1. 開国 2. 幕府の滅亡 3. 統一国家の成立	○ペリーの開国要求で鎖国政策が転換され、日米修好通商条約の締結によって始まった貿易が社会に混乱をもたらしたことを学びます。 ○政治の主導権をめぐる争いが続くなか、薩長同盟の成立によって討幕の気運が高まり、大政奉還後の戊辰戦争で徳川方の勢力が敗れたことを学びます。 ○版籍奉還と廃藩置県によって天皇を中心とする統一国家が成立し、身分制度が廃止されたことを学びます。	○日米和親条約と日米修好通商条約の違いと、通商条約のもった意味を考察します。 ○グラフ資料を活用して、貿易の実態について考察します。 ○大政奉還が実現した理由を、国内外の情勢をふまえて考察します。 ○戊辰戦争において新政府軍が勝利できた理由を考察します。 ○五榜の掲示などの史料を活用し、新政府が民衆の期待に応えるものであったのかを考察します。

	単元名	学習項目	学習内容	学習活動
2月		<p>4. 近代国家をめぐりて</p> <p>5. 殖産興業と文明開化</p> <p>6. 明治初期の国際情勢</p> <p>歴史を探る 岩倉遣外使節団</p>	<p>○学校制度の確立, 国民皆兵が近代化に必要とされたことを理解し, 地租改正による近代的土地所有権の確立を学びます。</p> <p>○政府が積極的に近代化を進めた結果, 交通や通信などのさまざまな分野で西洋化が生じたことを学びます。</p> <p>○政府が琉球・朝鮮に対して強圧的な態度で国境を画定させた一方, ロシアとは平和的交渉で国境画定を進めたことを学びます。</p> <p>○岩倉使節団が欧米で見聞を広め, 国際認識を新たにすることを学びます。</p>	<p>○小作農が土地所有者に従属し, 重い現物小作料を納める関係が残されたことの意味を考察します。</p> <p>○社会の大きな変化に対して, 人々がどのような思いを抱いていたのかを考察します。</p> <p>○地図を利用して当時の国境を確認し, 現代の領土問題について考察します。</p> <p>○岩倉使節団のコースを地図で確認します。</p>
3月	2. 立憲政治の形成と国民文化	<p>1. 政府専制への批判</p> <p>歴史を探る 西南戦争と庶民</p> <p>2. 立憲政治の成立</p> <p>3. 新しい文化の形成</p>	<p>○士族反乱の鎮圧後, 自由民権運動が活発化し, 国会開設の勅諭が出された経緯を学びます。</p> <p>○松方デフレ期に民権運動は衰退し, 大同団結運動によって運動が再燃したことを学びます。</p> <p>○士族の商法を描いた錦絵をもとに, 西南戦争が庶民の共感をよんだことを理解します。</p> <p>○大日本帝国憲法の制定後, 初期議会で展開された政府と民党との対立の推移を学びます。</p> <p>○不平等条約の改正をめぐる交渉が, 国際情勢の推移のなかで進展したことを学びます。</p> <p>○学校教育がしだいに国家主義化され, 思想界でもナショナリズムの動きが現れてきたことを学びます。</p>	<p>○自由民権運動が目標とした憲法と, 政府がめざした憲法との違いを考察します。</p> <p>○松方デフレが自由民権運動にあたえた影響について考察します。</p> <p>○士族たちが反乱をおこした理由について考察します。</p> <p>○日本国憲法との比較から大日本帝国憲法の特徴を考察します。</p> <p>○条約改正交渉が成功した理由について考察します。</p> <p>○新聞をはじめとして, 啓蒙主義の普及に大きな役割を果たしたメディアについて考察します。</p>

## 4 評価の方法

### (1) 評価の結果を生かす

評価は自分自身の学習の成果を確認するためになされるものです。このことをしっかり確認し、不十分な点があればその後の学習につなげるようにしましょう。そのためにも、返却されたテストやレポート、自己評価などの見直しを徹底しましょう。

### (2) 評価の観点

評価は学習で身に付ける力を次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	○歴史的事象と現在との結び付きを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意味に気付き、関心をもって主体的に学習に取り組んでいるか。 ○現代の社会が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく主体としての自覚をもって考える態度を身に付けているか。
思考・判断・表現	○日本の歴史の展開から課題を見出し、世界の歴史や国際環境等と関連付けて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。 ○歴史的に形成された諸課題について、さまざまな理解・立場があることをふまえて、公正に判断しているか。 ○課題についての考察や判断の過程や結果を、適切な方法を選んで効果的に表現しているか。
資料活用の技能	○日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。 ○得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身に付けているか。
知識・理解	○基本的な歴史事象に関する知識を身に付け、各時代の特色を理解しているか。 ○日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解しているか。

### (3) 評価の時期と方法

ア 年5回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況を評価します。

イ 「歴史の解釈」「歴史の説明」をはじめとする課題学習の際のレポートは、評価のための資料とします。課題の設定・追究学習を行う際には、「歴史の論述」を参考にしてください。

ウ 学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とします。

エ 自己評価、振り返りシートを評価の参考とします。

### (4) 評定について

評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行います。